

災害ボランティアの学生の参加に対する障壁とその解決策に関する提言

Barriers to student participation in disaster volunteerism and recommendations for solutions

みずのぐみ

恩田壮太郎, 畠山みなみ, 今西怜央,
朝比奈颯, 岡崎愛芽, 太田真穂, 田村祥人
指導教員 水野雅男

法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 水野雅男研究室

能登半島での災害ボランティア経験を通じ、学生ボランティアの不足が被災地復興の課題であると認識した。調査によりボランティア参加には障壁があることが浮き彫りになった。今後、福祉協議会や学生を対象に追加調査を行い、支援体制の改善や具体的な障壁解消策を検討し、助成事業の改善提案に繋げる。

キーワード：災害ボランティア, 学生ボランティア, 障壁と解決策

1. 諸言

今回我々は被災地である能登半島でボランティアを体験し、多くの課題や現状を知ることができた。特に注目すべき重要な課題として浮き彫りになったのが、若い力である学生ボランティアの著しい不足という問題である。地震発生から半年以上が経過した現在においても、被災地では倒壊した家屋の解体作業や、散乱した瓦礫の撤去作業など、体力を必要とする作業が必要とされている。このような状況下で、学生ボランティアの参加が少ないという現状は、被災地の復興にとって看過できない問題であると私たちは強く認識した。

2. 研究目的

我々は学生のボランティア参加を促進するための効果的な方策を見出すために以下の2点について詳細な調査を実施することにした：

1. 学生がボランティア活動に参加する際に直面している具体的な障壁や課題は何か
2. 1の調査で判明した障壁や課題に対する解決策は何か

3. 予備調査結果

1) アンケート調査

災害ボランティアに参加したことがない一般の法政大学生に対するアンケート(サンプル数:27)では、災害ボランティアに対するイメージを尋ねたところ、「大変そう」や「大掛かりなイメージ」「時間や体力、金銭的余裕がないとできない」「知識やスキルが無いとかえって邪魔になってしまう」などマイナスなイメージの回答が多く見られた。しかし興味深いことに、災害ボランティア経験が無い人のうち、今後災害があった際に災害ボランティアに参加したいと思うかという問いに対して約77%の人が「はい」と回答^{*1}し、潜在的な関心の高さが明らかになった。

2) インタビュー調査

法政大学ボランティアセンターの学生団体であるチームオレンジの代表、小林氏へのインタビューも実施した。チームオレンジは復興支援活動や防災啓発などの活動を積極的に行っており、今年8月には約30名を率いて能登の災害ボランティアに参加している。今回の災害ボランティアは定員が30名であったのに対し、募集開始から2~3日で60人ほどの応募があり、すぐに募集を打ち切ったという。

代表の小林氏からは以下の知見が得られた：

- 「ボランティアに行きたいという思いを持った人は意外と多くいる。現地のために何かをしたい人が集まったのではないか」
- 交通費や食事の補助、夏休み期間という時期的要因が多く応募につながった
- 「交通費などの金銭的補助だけでなく、安全靴・作業着など持ち物の支給などサポートを手厚くすることでハードルを下げて、ボランティア参加の容易さをアピールすることが重要」

4. 考察

以上のアンケートから、災害ボランティアに参加したことがない学生の意見として「大変そう」などといった漠然的・抽象的なイメージや、「金銭的な余裕がないとできない」といったイメージが障壁になっているのではないかと考察した。

インタビューによると、法政オレンジでは災害ボランティアを実施する際に、参加者への交通費や必要な持ち物の支給を行った。このことから、参加者自身が準備する負担を軽減することも、障壁を払拭するために必要な要素であると考えた。

これらを踏まえ、学生ボランティアを増やすためには災害ボランティアにまつわる被災地の現状や補助制度等の具体的な情報の提供、ボランティアに必要な準備の負担を減らす取り組みを行うことで参加する学生が増えるのではないかとこの考察を行った。

5. 今後の調査

これらの予備調査の結果と考察を踏まえ、以下の2つの方法で本調査を実施する：

1. 八王子市の災害ボランティア活動助成事業に関する福祉協議会への調査

- 実施期間：11月4日～5日
- 目的：行政側の支援体制や課題の把握←助成制度の活用実績、活用された方の特性・属性、若い年代の活用が少ない原因（課題）と考えていることについて聴取する

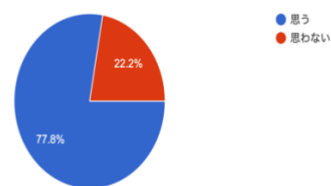
2. 法政オレンジとソーシャルイノベーションセンター（通称SIC）の学生を対象としたアンケート調査

- 実施期間：11月7日～16日
- 対象を明確に限定し、災害ボランティアに多く参加した団体とそうでない団体を比較し、災害ボランティアの参加に対する阻害要因やその解決策を明確にする（両団体約25名ずつを予定）

6. 提案

これらの調査結果を総合的に分析することで、学生の災害ボランティア参加における具体的な障壁や、それを解消する手段・方法を明確に把握し、八王子市の助成事業の改善に向けた効果的な提案につなげていく。

今後災害が起こった場合、災害ボランティアに参加してみたいと思いますか。
27件の回答



※1：災害ボランティアの参加についてのアンケート